



つづく つながる 夢を育てる学び舎
国立二小だより

令和7年(2025年)1月31日
国立市立国立第二小学校
校長 内田 辰彦

つづく つながる

副校長 後藤 茂敦

1月18日(土)の学校公開では、たくさんの保護者の皆様にご参観いただきありがとうございました。振替休業日にあたる1月20日は、二十四節気24番目の節気「大寒(だいかん)」でした。大寒は、1年の中で最も寒さが厳しい時期という意味で、その名のとおり1年の最低気温を記録することが多いのがこの時期です。しかし、学校公開当日もそうでしたが、東京では例年の凍えるような寒さは影を潜め、春を思わせる暖かな日差しでした。年々秋が短いと感じますが、スギ花粉の飛散も始まり、このまま冬も終わるのでしょうか。大寒の次の節気は、立春(2月3日)です。

さて、先日は、令和6年度の「学校評価アンケート」へご協力いただきありがとうございました。回答率は全家庭の約33%(415世帯中137件の回答)で、アンケート実施の周知方法など、回答率を上げるための工夫が今後の課題となりました。

「かしこく」の項目については、7項目のうち6項目で8割以上が肯定的な回答でした。最も肯定的評価が高かったのは「**学校は基礎的な学力の定着を図っている。**」についてで、肯定的な回答が94.2%でした。個別最適な学びの充実とともに、学校として力を入れて取り組んでいた項目です。引き続き、子供たちの基礎的基本的な学力が定着するよう指導してまいります。

「あたたかく」の項目については、6項目全てで8割以上が肯定的な回答でした。最も肯定的評価が高かったのは「**学校は『ふわふわ言葉』が増えるように指導している(『ふわふわ言葉』とは、言われてうれしくなったり元気が出たりする言葉)**」についてで、肯定的な回答が95.6%でした。2学期末には全教室でふわふわ言葉の掲示を行い、月目標やふれあい月間と連動して、他者理解に重点を置いた関係の構築に努めました。今後もふわふわ言葉が響く、子供たちにとって居心地の良い学校を目指します。

「つよく」の項目については、4項目のうち3項目で8割以上が肯定的な回答でした。最も肯定的評価が高かったのは「**学校はアレルギー対応食を徹底したり、くにたち食育推進・給食ステーション(KAMU COME キッチン)との連携体制を構築したりしている。**」についてで、肯定的な回答が96.4%でした。トレイの色を変える等、児童も教員も視覚的に分かりやすい対応を行っています。給食だけではなく、子供たちが安心安全な生活が送れるよう、今後も改善を進めていきます。

これらの結果は、先日行われた学校評議員会の中でも報告しました。アンケート結果を踏まえた学校としての改善策を示し、そのことについて評議員の方からご意見をいただきました。学校評議員会での評価や保護者・子供たちのアンケート結果を踏まえて、次年度の計画を策定してまいります。詳細は、別紙をご覧ください。

1月より新校舎での生活が始まりました。当初は、自分の教室にたどり着けず迷子になる子もいましたが、少しずつ慣れてきた様子が見られます。旧校舎での良き伝統を**つなぎ**ながら、いただいたご意見を活かしつつ、新しい校舎と共に**つづく**歴史を保護者・地域の皆様と紡いでいけたらと思います。今後とも、ご支援ご協力をお願いいたします。



スロープ下にあるピアノの名前は、「キラキラピアノ」に決定しました。